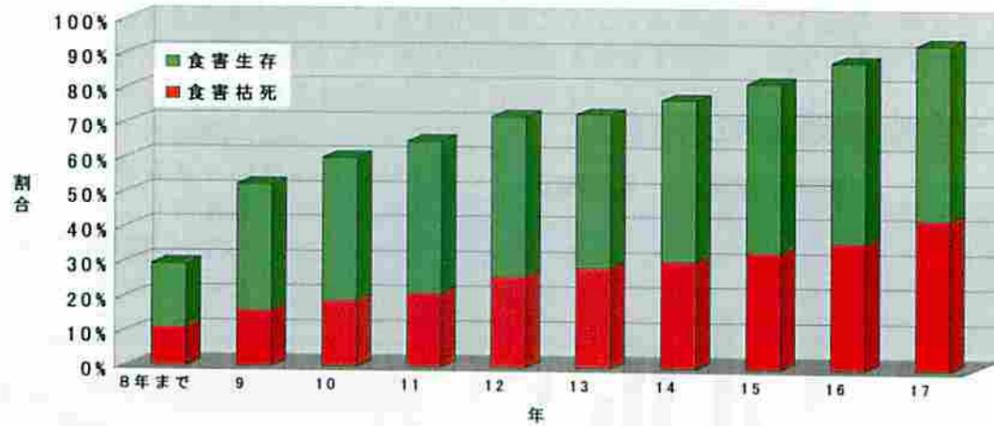


「エゾシカ樹皮食害調査」の結果まとまる

知床では平成に入ってから急増しているエゾシカによる森林への食害が顕著となっており、深刻な問題となっています。当センターでは、エゾシカが好む木として知られるイチイが多くあるイチイ遺伝子保存林に試験地を設定し、平成9年より毎年春に食害木、秋に枯死木の調査を行っています。これまでの調査結果は以下のグラフの通りですが、平成17年は新たに37本のイチイが食害を受けたため、イチイ全体(724本)の93%が食害を受けたことになりました。内訳をみると食害を受け生存しているイチイは50%、食害を受け枯死したイチイは43%となりました。年々進行する食害が結果として9割以上のイチイに及んでいることから、おそらく知床全体でも相当の被害が出ているものと思われます。当地区では、平成12年の秋に樹皮食害防除の為に網を調査区内のイチイ約100本に巻き、その結果、ある程度の防除効果が見られましたが、それでもイチイ全体の7分の1程度に過ぎません。今後はイベント等を活用して網巻きを進めると共に、被害木が枯死に至るプロセスを明らかに出来るよう調査を進めたいと思います。

イチイ食害発生推移(積算割合)



ホームページで最新情報のチェックを!

昨年11月にリニューアルしたホームページでは、知床の今を写真とともに紹介する「知床森林センターブログ」や、知床の3箇所に設置したカメラ画像が見られる「知床ウオッチ」など、今の知床の様子がチェックできます。特に、これから流氷が接岸する時期には、パソコン画面で遠くアムールからの使用者が確認できるかもしれません。どうぞご覧下さい。

知床森林センターホームページアドレス <http://www.shiretoko.go.jp>

新規採用者の紹介

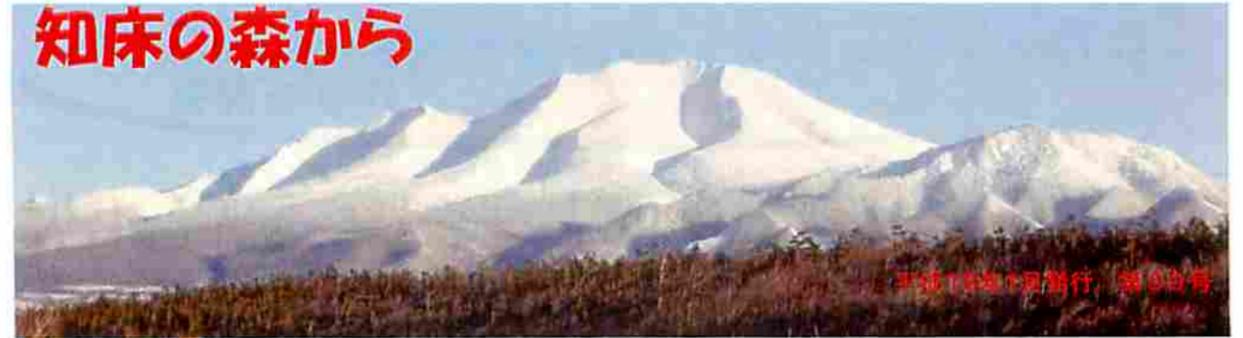
12月1日付けで新規採用になりました齋藤 蘭です。
出身は室蘭市で、大学時代は栃木県におりました。
趣味は旅行や食べ歩きです。美味しいお店がありましたら是非教えてください!
今年の冬はスノーボードに挑戦したいと考えています。



2月から斜里の市外局番が変更になります!!

(知床森林センターTEL) 現 01522-3-3009 → 新 0152-23-3009

知床の森から



(写真:海別岳)

北海道森林管理局 知床森林センター

〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地

電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp/>



知床は今

2005年は、知床が世界自然遺産に登録されるという記録に残る年でしたが、同時に遺産登録前後の報道等を通じて、改めて知床の自然の素晴らしさを知ってもらい、記憶に残る年にもなったのではないのでしょうか。「我が国に残る数少ない秘境」「ヒグマやエゾシカが闊歩する自然」。多くの方が知床に対し、このようなイメージを再認識し、「いつかは行ってみたい」「もう一度行ってみたい」という想いを強くされたことと思われます。実際、遺産登録後は、前年度比20%を超える観光客が訪れる月もたはほか、局地的にはそれ以上の人が押し寄せ、多くの関係者の「想像を超えた」状況となり、オーバーユースなど多くの問題も再認識する事態となりました。

一方、観光シーズンが過ぎた11月から流氷が訪れるまで、知床は一年のうちで最も静かな季節を迎えます。この時期の観光客数は、7~10月のハイシーズンと比べその10分の1にも満たないのです。この極端な格差は多くの観光地で共通して抱える問題かと思いますが、知床の場合、その魅力の最たるものである「秘境感」が、繁忙期の混雑で損なわれてしまいかねない危険性を抱えており、事実、一部では既にそのような指摘もなされているところです。

遺産効果が本格化するであろう今年には知床リピーターを確保するための正念場であると多くの方が感じています。適正な利用のためのルール作りの必要性が高まる一方、時期や場所に集中する入り込みを分散化させるための検討も求められています。

その中で知床森林センターとして広く知床の森林の魅力を伝え「国民参加の森林づくり」促進を持続的に行えるようにするため、何をすべきでどのようなことが出来るのか、今年の課題として取り組みたいと考えています。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



原生的な自然環境が残る知床の森林

第59回森とのふれあい

森の恵みのクリスマスリース作りを開催



第59回森とのふれあい『森の恵みのクリスマスリース作り』を11月20日(日)当センター2階のセミナー室で実施しました。

参加者は斜里町のご婦人方を中心とした19名で、中には7才の子供さんや網走から参加して頂いた方もいらっしゃいました。

当日、講師としてお招きした、町内で華道教室を開いている古川範子さん他2名より説明を受けリース作りに取りかかりました。手順は職員が予め用意したトドマツの枝先を切り取りマツの穂先を一握りずつ束にするという地道な作業から始まり、その後、

その束を針金を輪にした骨組みにくくりつけ、飾り付けとして金色のベルやリボン・松ぼっくりを取り付け仕上げるといふものです。皆さん作業に集中されると、予定の3時間があっという間に過ぎてしまいましたが、出来上がったリースからは、自然の素材ならではのトドマツの香りが漂い、「すてき!」と皆さん満足されていました。クリスマスには豪華な雰囲気の手作りリースが飾られ素敵な夜になったでしょう。

第60回森とのふれあい

『冬休み親子木工体験』を開催



第60回森とのふれあい『冬休み親子木工体験』を、1月14日(土)に当センター2階のセミナー室で開催し、斜里町の親子23名が参加しました。工作は、あらかじめ用意した小枝・小石・マツカサ・落ち葉を大小プレートの上で組み合わせ、接着剤で固定する人形作りと、落ち葉をシートに挟み、色つきセロファンで飾る落ち葉のステンドグラス作りの2種類を行いました。冒頭、センター職員から作成方法や刃物の取扱の注意等を聞いた後、子供達は各自好きな材料を手

に工作づくりに取りかかりました。一人で熱中する子供もいれば、親子で協力して取りかかる参加者もいて、中には親の方が熱心に取り組んでいるケースも見受けられました。素材は身の回りにありふれているものでも、普段なかなかする機会のない木工に参加者一同満足して頂いたようでした。出来た作品はおそらく冬休みの宿題に使われるのでしょうか。これを機会に、身の回りの自然に関心を持ってもらえたら良いと思いました。



ミズナラ堅果結実調査の結果がまとまりました

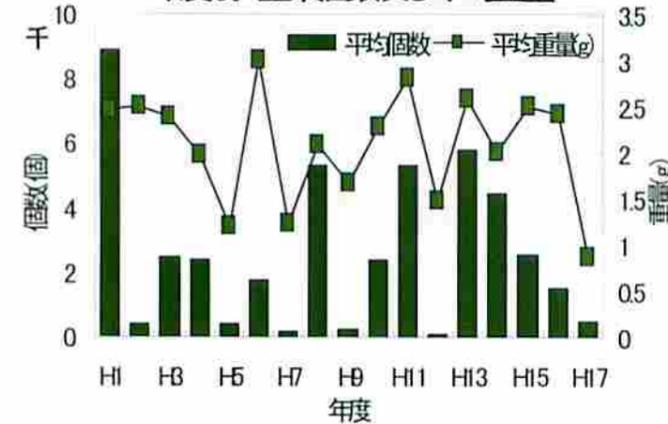
～5年ぶりの凶作になりました～

毎年実施している「ミズナラ堅果結実調査」の平成17年の調査結果がまとまりました。

この調査は知床半島の主要な樹種の一つであるミズナラのドングリの結実を調べていて平成元年から毎年実施しています。調査地は知床半島の岩尾別15本・イタシュベツ10本の二箇所に設けられ、全部で25本のミズナラを調査木として選んでいます。ドングリを集めるのは9月上旬から10月中旬まで、一週間毎に集めます。その方法は、各調査木の枝の下に、ドングリを受け止めるための寒冷紗(かんれいしゃ)で作った1畝四方のトラップ(写真右)を調査木1本当たり3個、全部で75個設置し、そこに落下するドングリを集めます。集めたドングリは一個ずつ重さを量り、重さ、個数を集計し樹冠面積に対する係数をかけて数量を算出します。



年度別 堅果個数及び平均重量



今年度の調査結果は左のグラフのようになりました。調査木1本当たりのドングリの数は平均439粒、ドングリ1粒あたりの平均重量は0.8グラムと平成12年から5年ぶりの凶作となりました。今年度は全道的にも凶作となり、その影響でクマの被害が多かったとの報道がありましたが、知床においては、マスの遡上など他の餌が豊富なことから堅果の凶作がクマに与える影響は限定的と思われるます。

近年、豊作が無いことから来年度は豊作が期待できるかもしれません。

知床国立公園利用適正化検討会議が開催されました

昨年12月6日(火)に中標津トヨグランドホテルにおいて標記会合が開催されました。この会議は、第96号でもお知らせしましたが、対象エリアを『知床岬を含む「先端部地区」』と『知床連山(羅臼岳～硫黄山)、知床五湖及び横断道路周辺を含む「中央部地区」』に分け、それぞれについて適正な利用のためのルール作りを進めることを目的として行われています。

既に両エリアの「利用適正化基本計画」が策定されており、今会議ではそれに基づき、前者は遵守事項として利用者に示す「利用の心得」の具体化、後者はエリアの細分化と取り扱う優先順位及び方針が議論されました。また、会議冒頭には、観光客の急増により自然環境への影響が深刻化していることに鑑み、来シーズンが本格化する前に速やかに示すべき先端部地区の利用マナーの周知内容についても意見交換がなされました。

会議の中では、昨年遺産登録後の混雑状況の報告も行われ、観光スポットに人や車が殺到している様子が写真と共に示されました。併せて新たな踏み付け跡の増加や落書きの確認なども報告され、知床が持つ魅力である「秘境感」の喪失が現実的なものになりつつあることを感じるとともに、早急な対策の必要性を再認識する場ともなりました。